



山折 哲雄

岩村 暢子

宗教学者

大正大学
地域構想研究所
客員教授

山折 哲雄

岩村 暢子

[特別対談]

平成の30年で 日本の何が変わったのか?

平成が終わり令和が始まった今年、戦後史のなかで
平成の30年間はどのような時代だったのか?
食の調査を切り口に戦後の日本人の変化を探る岩村さんが
宗教学者の山折さんに聞いた。

構成●編集部 撮影●成田舞

**個人、個の自立に失敗した
戦後日本の状況**
岩村 以前、山折先生にお目にかかっ
たとき、「戦後75年を総括する意味で、
平成の30年間は非常に重要だ」とおっ

しゃっておられた。特に、「個の自立」
の失敗と「家族の崩壊」の二つは、も
う少しきっちり検証しなければいけな
いと。今日はそのあたりをもう少しお
伺いしたいと思って来ました。

山折 私は敗戦のとき旧制中学2年で、
つい昨日までは軍国主義少年だった。
ところが敗戦と同時に急激に民主主義
少年になるわけです。ほんのわずかな
期間にその二つを経験した。敗戦のと
きは無限の解放感を私は感じた。その
解放感をさらに後押ししてくれたのは
アメリカ文化、それから「自由平等」
というスローガンです。

しかし、「自由」というのは人が成
熟しないと分からない概念です。少年
にはもちろん、あの時代の大人ですら
それを誤解しました。でも「平等」と
いう概念は手に入れやすい。例えば給
食というのは平等を具現化する、あの
時代の非常に重要な施策だった。それ
が単なる横並びの形式的な平等主義に
なってしまった。その裏側で、日常的
に他人と自分を比較し、いやがおうに
も落差を思い知らされることになる。

それを私は「比較地獄」と言った。
そのうちに、朝鮮戦争、ベトナム戦
争があって、経済成長の時代にスッと
入って行ってしまふ。戦後は貧乏生活